

〔指定管理者制度導入施設〕〔A調書〕

事業評価調書〔途中評価〕（令和元年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県美術館	事業所管	文化観光国際部	文化振興課
所在地	長崎市出島町2番1号	課(室)長名	村田利博	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	2	交流を支える地域を創出する
	施策	(2)	文化・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	文化・芸術による地域づくり

2. 施設の概要

設置年月日	平成17年4月23日						
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日）						
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。						
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）						
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー						
施設の利用料金体系	施設の利用料金体系						
	〔常設展利用料金〕						
		一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	
普通観覧料金	400円	300円	200円	300円	○免責事項 ※県内在住の小・中学生は無料。 ※障害者手帳保持者及び介護者1名は無料。 ※学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲・ろう・養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料。		
団体割引料金	320円	240円	160円	240円		15名以上	
施設の利用料金体系	〔貸館利用料金〕						
	名称	面積(㎡)	利用料金(入場無料の場合)	備考			
	県民ギャラリー	940	32,900円/日	※入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍			
運河ギャラリー	170	2,890円/日	※入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり。				
ホール	210	6,500円/回					
講座室	70	2,600円/回					
運河劇場	330	990円/回					
屋上庭園	1,200	6,100円/回					
類似施設の設置状況	類似施設の設置状況						
	施設名	岩手県立美術館 島根県立美術館 富山県美術館					
	一般	410円 300円 300円					
	入館料	大学生 310円 200円 無料					
	高校生以下	無料 無料 無料					
	利用者数（H29実績）	98,050人 125,699人 234,433人					
	指定管理者制度導入	平成18年4月1日 平成17年4月1日 平成18年4月1日					
	管理運営負担金（H30予算）	411,344千円 292,160千円 294,219千円					
	述べ床面積	13,000㎡ 12,498㎡ 14,990㎡					
	指定管理形態	管理（学芸部門は委託） 管理（学芸部門は直営） 管理（学芸部門は直営）					
県 予 算	区 分 (単位：千円)		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)
	財源	国庫					
		その他(諸収入、繰入金)	344,653	353,624	353,524	347,865	351,087
		一般財源	38,023	5,384	4,857	10,000	10,000
		事業費<A>	382,676	359,008	358,381	357,865	361,087
	内訳	管理運営負担金	342,035	342,035	342,035	342,035	345,202
		その他(特別経費負担金等)	40,641	16,973	16,346	15,830	15,885
		人件費	16,112	16,084	16,092	15,944	15,946
		合計<C=A+B>	398,788	375,092	374,473	373,809	377,033
		単位あたりコスト	1	1	1	1	1
(説明) 「当事業による入館者1人あたりの運営費用」= C ÷ (入館者数)							

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	<<所在地>> 長崎市出島町2番1号 <<名称>> 公益財団法人長崎ミュージアム振興財団 <<代表者氏名>> 中牟田 新一		
指定期間	平成27年4月1日 ~ 令和3年3月31日		
業務	①施設(設備)の維持・修繕等 ②美術館の運営(展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携) ③美術館のマネジメント(集客、営業、PR、イベント企画、ボランティアの活用等) ④ミュージアムショップ、カフェの経営		
利用料金制	<input checked="" type="checkbox"/> 導入済	<input type="checkbox"/> 未導入	選定方法 <input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	実 績		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)	
	単 位							
① 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数	a 目標値		-	5	5	5	5	
	b 実績値		-	9	5	6		
	c 達成率b/a	%	-	180	100	120		
② 来館者満足度	a 目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
	b 実績値		4.2	4.2	4.3	4.3		
	c 達成率b/a	%	105	105	107	107		
③ 県民ギャラリー稼働率	a 目標値		90	90	90	90	90	
	b 実績値		100	100	99	98		
	c 達成率b/a	%	111	111	110	108		
④ 美術館入館者数(参考値)	a 目標値		-	-	-	-	-	
	b 実績値		389,226	371,897	346,736	391,547		
	c 達成率b/a	%	-	-	-	-	-	
指定管理者の収支状況	事業計画(H30)		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)	
	(千円)	実績-計画						
収入	利用料金	47,080	-3,079	49,474	65,329	54,269	44,001	82,217
	県負担金	342,035	0	342,035	342,035	342,035	342,035	342,035
	その他	118,283	-12,012	183,391	100,587	112,127	106,271	255,501
	計a	507,398	-15,091	574,900	507,951	508,431	492,307	679,753
支出b		506,923	-3,762	569,464	516,646	507,787	503,161	671,865
	うち人件費	122,012	2,911	113,359	116,500	119,378	124,923	123,505
収支a-b		475	-11,329	5,436	-8,695	644	-10,854	7,888
配置職員数(人)	常勤	24	0	25	23	25	24	25
	非常勤	0	0	0	0	0	0	0

※この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものととしては、「2 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 平成30年度事業の実施状況・実績の検証

計 画	実 績
<p><指定管理者実施分> ①美術館の管理運営業務 ②調査研究業務 ③他の美術館、博物館との連携事業 ④生涯学習、教育普及事業 ⑤アートボランティア事業 ⑥広報マーケティング事業 (利用料金、その他自主事業) ⑦常設展事業 ⑧企画展事業 ⑨施設貸出事業 ⑩ショップ・カフェ事業</p> <p><県実施分> ①施設や備品の修繕業務等</p>	<p><指定管理者実施分> ①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。 ②収蔵作品に関する調査研究、保存修復に関する調査研究、展覧会企画に関する調査研究、生涯学習支援に関する調査研究、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。 ③釜山市立美術館との相互ワークショップ事業を実施した。 ④学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、12,105人が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(平戸市、南島原市) テレ会議システムを利用して遠隔地の小中学校と遠隔授業を実施した(壱岐市、西海市) ⑤110名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般に渡るボランティア活動を実施した。 ⑥展覧会やイベント毎にプレスリリースを配信し、取材誘致を行った。 HPへのアクセス数は652,857件(H30にアクセス解析ソフトが新しくなったため、前年度比較行っていない)であった。特に夏季休暇期間中に実施した企画展「魔法の美術館」へのアクセス数が多かった。またメルマガの配信やツイッター、インスタグラムの活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的かつ確実に新しい情報を発信した。 (利用料金、その他自主事業) ⑦入場者は館目標を若干下回る48,768人となったが、日本スペイン外交関係樹立150周年記念企画のひとつとして開催した「Women & Women展」「中山文孝展」や「東松照明展」など、長崎ゆかりの作家の小企画展を開催したことにより高い満足度を得て、H29年度の常設展入館者実績43,958人からは約5,000人伸ばすことができた。 ⑧「大江戸展」や世代を超えて楽しめる「魔法の美術館展」「明和電機展」「リカちゃん展」が好評だったこともあり、総入場者数は136,484人(計画比105.7%) (←H30企画展の総入場者数目標は129,098人) ⑨県民ギャラリー、ホール・講座室等の利用促進に努めた。 県民ギャラリーでは56展覧会、延べ展示日数347日(稼働率98%)の利用となった。県民ギャラリー等の利用者数は212,678人であり、全入館者数の54.3%を占めている。 ⑩ショップ事業は例年に比べ特設ショップの設置が少なく、客単価も低迷したが、来客者数は伸ばすことができたので、前年度比で減収増益で黒字となった。一方、カフェ事業はサンドウィッチ類の提供を行ってきたが、フードメニューの要望が多くニーズに応えることができなかったことや、経年劣化による設備の修繕等も重なり赤字となった。新年度から産地食材にこだわったおにぎりプレートやパスタ・ホットドッグの提供を開始し、新たな顧客の獲得に努めている。</p> <p><県実施分> ①空調機器の各種修繕を実施した。</p>
検 証	
<p>○年間入館者数は391,547人で「館目標」の360,000人を上回り、来館者の満足度も86%と目標の80%を上回ることができた。 ○企画展事業について、「大江戸展」や世代を超えて楽しめる「魔法の美術館展」「明和電機展」「リカちゃん展」が好評だったこともあり、総入場者数は136,484人(計画比105.7%) (←H30企画展の総入場者数目標は129,098人)となった。 ○常設展事業では、日本スペイン外交関係樹立150周年記念企画のひとつとして開催した「Women & Women展」「中山文孝展」や「東松照明展」など、長崎ゆかりの作家の小企画展を開催したことにより高い満足度を得た。 ○県民ギャラリーの稼働率は98%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は212,678人と全入館者数の54.3%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。 ○一方、経営面では自主企画展目標の未達やコストの増加により赤字を計上した。</p>	

管理運営の状況

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	507,398	492,307	
負担金	342,035	342,035	
利用料金 (うち常設展収入) (うち企画展収入)	53,481 (6,401) (36,343)	44,001 (4,646) (29,640)	企画展において、受託事業は概ね計画通りの収入実績だったが、自主事業が計画比約75%となったことなどにより減収
その他 (うちショップ収入) (うちカフェ収入)	111,882 (56,939) (19,624)	106,271 (46,265) (16,147)	ショップ事業は例年に比べ特設ショップの設置が少なかったことと、客単価も低迷したため減収。また、カフェ事業はサンドウィッチ類の提供を行ってきたが、フードメニューの要望が多くニーズに応えることができなかったこと等により減収
支出 b	506,923	503,161	
負担金 (うち施設維持管理費)	342,035 (12,110)	342,035 (12,722)	
利用料金 (うち常設展支出) (うち企画展支出)	86,248 (12,529) (73,719)	95,405 (7,003) (88,402)	企画展事業における他館からの資料借用にかかるコスト増が大きく影響
その他 (うちショップ支出) (うちカフェ支出)	78,640 (50,967) (18,363)	65,721 (43,964) (17,134)	ショップ支出については特設ショップの設置が計画よりも減になったため、支出も減
収支 a-b	475	△ 10,854	

収支の状況

<県実施分>

検 証

- 自主企画展については収入目標の未達やコストの増加により大きな赤字を計上した。
- カフェ事業についてもサンドウィッチ類の提供を行ってきたが、フードメニューの要望が多くニーズに応えることができなかったこと等により減収となり、経年劣化による設備の修繕等も重なり赤字となった。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

B

(説明)

- 生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。
- 年間入館者数は391,547人で「館目標」の360,000人を上回り、来館者の満足度も86%と目標の80%を上回った。
- 県民ギャラリーの稼働率は98%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は212,678人と全入館者数の54.3%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。
- 経営面では自主企画展の目標未達やコストの増加により赤字を計上した。

6. 令和元年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容

- 令和元年度も、スペイン芸術を標榜する当館が中心となって進めてきた「バルセロナ展」や、現代芸術の巨匠の半世紀にわたる創造の軌跡をたどる「ボルタンスキー展」などの企画展等を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、財務面についても運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。
- 収益事業であるショップ・カフェ事業について、ショップ事業は売れ筋商品を中心とするグッズフェアを年3回程度開催し、カフェ事業については産地食材にこだわったおにぎりプレートやパスタ・ホットドッグの提供を開始し、収益向上を図る。
- 助成金の追加申請及びマスコミと連携して新たな協賛金を獲得するとともに、地元事業者や長崎進出事業者からの法人会員獲得を図ることで、新たな自主財源の確保を目指す。

7. 令和元年度事業の評価

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・集客型の「コナン展」「JOJO展」の他、美術ファンにとっても十分に見ごたえのある「ボルタンスキー展」を中心に大型の企画展を複数開催する。常設展では田川憲、椛島勝一ら長崎ゆかりの作家を紹介することで、どの世代も楽しめる計画となっている。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質の向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	・施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	・企画展は、集客力のある魅力的な大型展を計画している。カフェは、収益改善を図るため抜本的な対策を実施している。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	・全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。
(その他の観点) ※評価区分 (a : 行われている b : 一部行われていない c : 行われていない)			
施設の在り方についての評価	視点	評価	理由
	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	入館者アンケートによると、入館者に占める県民の割合が平成29年度が1,000人中86%、平成30年度が1,002人中86%を占めており、必要性は十分ある。
	・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
	・市町または民間に移管・移譲することが適当(可能)ではないか。	■ a. 適当(可能)でない b. 一部適当(可能)でない c. 適当(可能)である	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない	H30年度総入館者数は館目標を約9%上回っており、全国の都道府県立美術館の中では高い入館者数を維持している。(H29実績では全国第6位)
	・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。
	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	適正な施設管理を行っており、成果指標もすべて目標を達成している。また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
・事業効果をさらに上げる余地はないか。	■ a. 余地はない b. 一部余地がある c. 余地がある	県の中核館として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を計画的に今後も開催する。	
(その他の観点)			

8. 令和2年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	改善	移管	廃止
(説明：2年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)				
○入館者数の目標達成のため、ヨーロッパの近代美術や現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、その他魅力的な展覧会の開催し、優れた美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、財務面についても運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。				
○建設から10年以上を経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。				
○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は概ね好調であり、今後も県民の積極的な施設利用を促していく。				
○指定管理者の経営基盤を安定化させるため、カフェ事業について、コスト削減を維持しながらも地域の食材に着目し、話題性のあるメニューを提供することで安定した黒字化を目指す。				